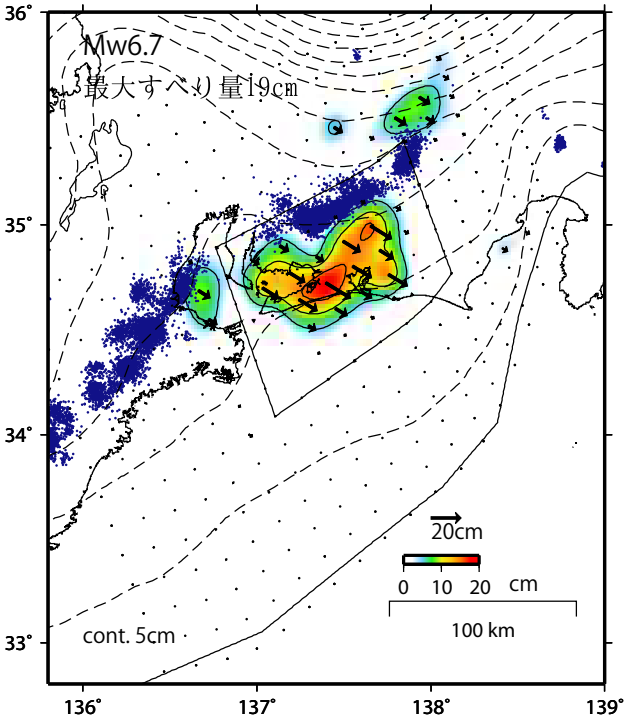
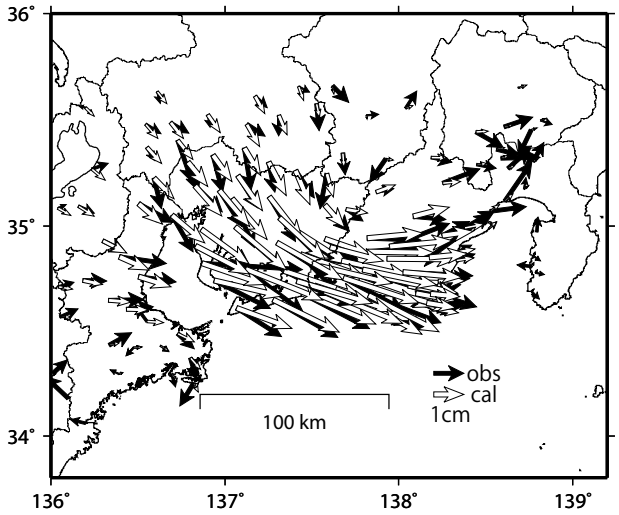
GNSSデータから推定された東海地域の長期的ゆっくりすべり（暫定）

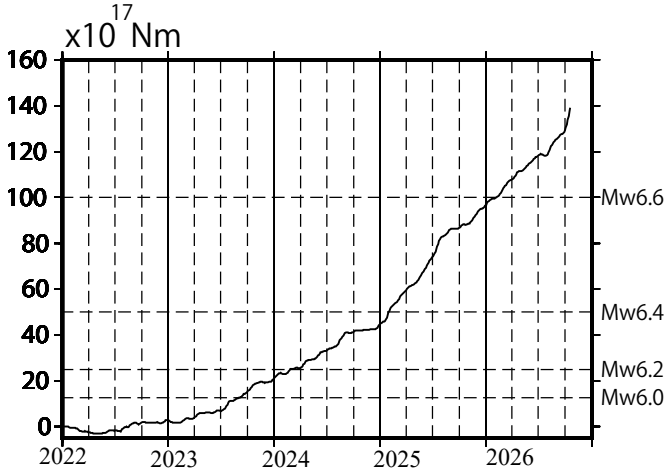
推定すべり分布
（2022-01-01/2026-10-19）



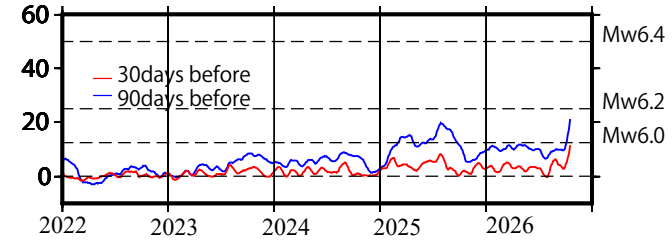
観測値（黒）と計算値（白）の比較
（2022-01-01/2026-10-19）



モーメント時系列（試算）



モーメント変化量の時間変化（30日間及び90日間）



Mw及び最大すべり量はプレート面に沿って評価した値を記載している。
すべり量（カラー）及びすべりベクトルは水平面に投影したものを示している。
推定したすべり量が標準偏差（σ）の３倍以上のグリッドを黒色で示している。

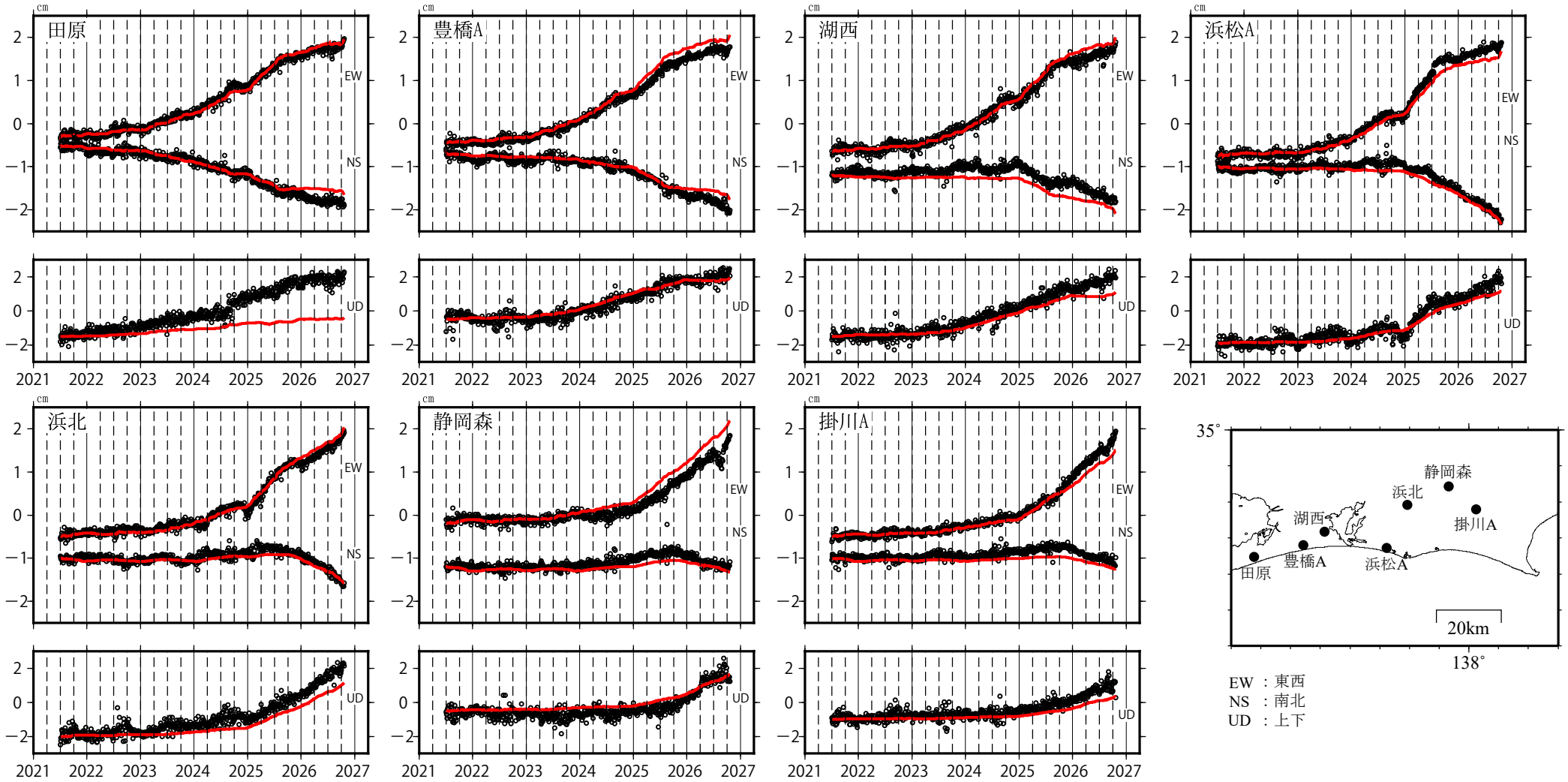
使用データ:GEONETによる日々の座標値(F5.1解、R5.1解)
　　F5.1解(2021-07-01/ 2026-10-03)+R5.1解 (2026-10-04/2026-10-19)
トレンド期間:2020-01-01/2022-01-01（年周・半年周成分は補正していない）
モーメント計算範囲:左図の黒枠内側
観測値:３日間の平均値をカルマンフィルターで平滑化した値
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(Hirose et al.,2008)
すべり方向:プレートの沈み込み方向に拘束
青丸:低周波地震（気象庁一元化震源）（期間:2022-01-01/2026-10-19）
モーメント:断層運動のエネルギーの目安となる量。

固定局:三隅

解析での補正内容
＊電子基準点の保守等による変動
＊共通誤差成分を推定
＊平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の粘弾性変形(Suito 2017)
＊令和６年能登半島地震に伴う地殻変動
＊令和６年能登半島地震の粘弾性変形(Suito 2025)
＊短期的ゆっくりすべりに伴う地殻変動（2017-01/ 2026-10-04:気象庁カタログによる）

国土地理院

東海地域の観測点の座標時系列(黒丸)と計算値(赤線)
時間依存のインバージョン



EW ：東西
NS ：南北
UD ：上下

国土地理院